

平成24年 1月26日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 渋谷 直史

論文題目： Association study between a functional polymorphism of FK506-binding protein (FKBP5) gene and personality traits in healthy subjects.

(健康人におけるFK506-binding protein 51(FKBP5)遺伝子の機能的遺伝多型と人格特徴との関連研究)

審査委員：主審査委員

山崎健太郎

副審査委員

早 亓 (左)

副審査委員

大谷浩一



審査終了日：平成 24年 1月 25日

【論文審査結果要旨】

気質や性格は、人の行動や思考等を規定する重要な要素であるが、これらの発現を生物学的にまとめた研究は未だ少ない。一方、コルチゾール等副腎皮質ホルモンは視床下部-下垂体-副腎系機能を介して血圧等の身体機能に影響を与えるのみならず、精神機能にも関与している。

本研究では健康日本人を被験者として、コルチゾールのネガティブフィードバック調整に重要な役割を果たしているFK506-binding protein (FKBP5) を発現する、FKBP5 遺伝子 (rs1360780) のイントロン部分にある1塩基多型と、気質や性格との関係を検討している。性格・気質は、性格検査でよく用いられる Temperament and Character Inventory (TCI) により分類し、FKBP5 遺伝子の塩基多型は被験者の血液からDNAを抽出し、real-time PCR法により同定した。その結果、同遺伝子の1塩基多型、すなわち塩基配列がCからTへ変異 (T/T, C/T) している T allele をもつ被験者群 (T allele 群) ではTCIのうち損害回避の得点が高値、協調の得点が低値であった。また性別毎に集計すると男性では協調の得点が T allele 群で優位に低値で、女性では損害回避の得点が T allele 群で優位に高値であることが判明した。

本研究は上記の通り、精神医学あるいは心理学上重要な要素である気質と性格を、広く認められている方法 (TCI) で評価・分類し、精神機能に影響する内分泌系である視床下部-下垂体-副腎系を調整するタンパク質と対比させ、精神・心理学的機能をより客観的・生物学的に追求し、精神医学や心理学の新たな研究方向を切り開いた点において大いに評価される。また、本論文では緒言や考察において、他の論文を十分に引用し、実験の意義を述べ、加えて専門的内容を容易に理解しうる表現で記述している。従って本論文は学位 (医学博士) に値するものと判断した。

(1, 200字以内)